

<本年度の学校教育目標>

伸びよ 豊かに たくましく ~ 大屋に学び、豊かな心で伸びやかに 未来への道を切り拓こうとする活力の育成 ~

<学校自己評価結果>

(良好 概ね良好 やや努力を要する 一層の努力を要する)

<学校関係者評価>

分野	取組内容	達成状況	取組状況・改善の方向性
小中一貫教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ つまずき解消等のため、学年間、校種間の学習の系統性を重視して指導にあたっている。 ○ 合同研修など、連携・協働体制の中で教育課題の解決に努めている。 ○ PTAや地域の諸会議・諸事業の工夫により、家庭・地域との緊密な連携に努めている。 	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部会を3つから2つにするなど、小中の教職員数に応じた推進体制を再構築して取り組んだ。各部会の取組内容を絞り込み、着実に積み上げることが必要。 ○ 外部から講師を招聘し、公開授業をもとに道德の授業研修(2回)を実施できたことは効果的であった。来年度も継続して取り組む。 ○ 小中合同の本部役員会(3回)や資源回収(2回)を行うなど、PTA活動の協働化が進んでいる。来年度からの学校運営協議会も少しずつ着実に推進したい。
いじめ防止対策に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校いじめ防止基本方針に基づき、定期的なアンケート調査や教育相談の実施等により、いじめの積極的認知に取り組み、解決にあたっている。 ○ 対応チームを中心に組織的に対応し、さらに実効性のある「学校いじめ防止基本方針」となるよう見直しを行っている。 	良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎週の生徒指導部会での状況把握と対応協議、定期的な生活アンケートの実施により、丁寧かつ迅速な生徒指導にあたることができた。 ○ 本年度の取組のよさや改善点を明確にした上で、「学校いじめ防止基本方針」を見直す予定。
勤務時間の適正化に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記録簿により自らの勤務時間を的確に把握し、計画的で効率的な業務の遂行と健康管理に努めている。 ○ 個人情報保護等、適正な情報管理を図るとともに、校務の効率化に努めている。 	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記録簿を適正に作成することにより、出勤時刻を意識した業務の推進にあたることができた。 ○ 責任をもって分掌の遂行にあたってはいるが、ひとり当たりの分掌数が多く、取組の深化が難しい傾向にある。
体罰防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体罰や威圧的な言動はあってはならないという認識を持ち、指導にあたっている。 ○ 非違行為は社会的信用・信頼を損ない、生徒への影響も大きいことから、注意し合い、職責を自覚して行動を律している。 	良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 報道される事案や国・県からの通知に基づき、職員会議や職員研修等の機会を活用して、常日頃から教育公務員としての自覚を促している。特に、少人数の職員規模を生かして、「こまめに話をする・話ができる職員集団」づくりを図っている。
家庭との連携に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だよりや学年通信、ホームページや、PTA・地域の諸事業を通して、家庭や地域との情報共有や連携に努めている。 ○ 学校だけでなく、地域の中でも気持ちの良いあいさつができるよう、家庭と連携しながら取り組んでいる。 ○ 「そうあんくんの日」を通して、自らの生活をよりよくしようとする態度を育成している。 	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だよりについては、保護者版と地域版を作成し、毎月発行した。ホームページの更新が物理的な事情等で滞りがちであったため、全面リニューアルを行い、スマホにも対応できるように工夫した。 ○ 生徒の挨拶が外来者や地域の方々から好評である。本校のよき習慣であり伝統である。「そうあんくんの日」の取組については、家庭と学校をつなぐ有効な取組のひとつとして、実施方法等を見直す必要がある。

学校自己評価を踏まえた学校の教育活動への意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大屋小中のPTA事業が早くから協働化していることもあり、小中一貫教育の推進についての保護者の意識はなじみやすいものであると思う。さらからは、小中学校9年間を通しての生徒の成長を小学校と中学校がどれだけ共有できるかが大きな課題になってくると思う。 ○ 目的をもってアンケート調査を実施され、その結果を有効に活用し、適切に対応されようとしていることを評価するとともに、さらなる取組の充実をお願いしたい。 ○ 大屋中の教員の平均超勤時間が全国の中学校の平均より低いものの、一般企業から見ると、さらに努力が必要だと言える。但し、今後に向けた努力については、大屋中だけではなく教育行政とともに努力する必要があると思われる。 ○ 「こまめに話しをする、話ができる職員集団」づくりを図ることにより、規律の保持や体罰の防止等につないでおられることを評価するとともに、今後も継続をお願いしたい。 ○ 学校からの発信は良くされていると思うが、保護者からも家庭の様子や教育活動への要望等が伝えられ、学校と家庭が情報共有できるような双方向の関係づくりがこれからさらに求められてくると思う。今後も一層の工夫を図られたい。

「確かな学力」の育成	学力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習を取り入れるなどきめ細かな指導方法を工夫している。 ○ 繰り返し学習や「おおよ学」、家庭学習の適切な設定等により、基礎・基本の着実な定着を図っている。 ○ 生徒の思考・判断・表現の過程を重視し、「考えを深める」「発表する」「書く」等の活動の指導を工夫している。 	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査では国や県と同程度、市による学力・学習状況調査では全国を上回る結果ではあるが、個々の生徒の学習内容の定着にばらつきが大きく、習熟の程度に応じた指導や学習形態の工夫が一層求められる。また、じっくりと考えてノートに自分の意見や考えを書く場面の確保など、授業の展開の工夫も求められる。 ○ 家庭での学習習慣の定着が課題。小中一貫教育推進の観点から小学校と連携し、9年間を通して積み上げながら改善の取組を進めていく必要がある。
	国際理解を深めるための教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語を用いた日常的なふれあいや対話を通して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。 ○ 日本や郷土の伝統や文化を学び、国際的視野に立って主体的に行動しようとする態度を育成している。 	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語の授業に楽しく参加できる生徒が多く、ALTを交えた活動にも能動的にかかわっていくことができる。ただ、国際交流をする機会は全くなく、全国学力・学習状況調査での生徒質問紙の結果を見ても、「英語の授業は好き」という割合が高い一方で、「将来、英語を生かした職業に就きたいか」という割合が低い。
	理数教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決の力を養う観察・実験、数・式・図等を用いた探究活動等に取り組んでいる。 ○ 外部と連携した実験の演示や特別授業を通して、生徒の理科、数学への興味・関心を高めている。 	やや努力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に大型モニターやICTを活用することにより、図式や実験等を具体的に見せて理解を深める工夫を図っているが、自分自身で課題をもって解決にあたらうとする姿勢を培うためにも、外部と連携した特別授業の実施等により、理数への興味・関心を高める取組が必要である。
	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員のICT活用指導力や情報モラル指導力向上のため、計画的で実践的な校内研修を実施している。 ○ 効果的にICTを活用する学習活動を通じて、情報活用能力の育成を図っている。 ○ SNS等に関連する新しい情報を家庭と共有しながら、利用に関するルールづくり等、生徒の自主的・主体的な取組を促している。 	やや努力	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA主催で開催した「情報モラル研修会」では親子でスマホを持って参加し、実際の事案をもとに、利便性に潜む危険性について認識するとともに、トラブルを回避するための設定等の方法を学んだ。 ○ 遠く離れた人とのライン等によるやりとりや、ゲームや動画閲覧の時間が長い実態もあり、利用に関するルールのさらなる徹底に向け、家庭と連携して生活習慣の見直しを図る指導の工夫を行っていく必要がある。
「豊かな心」の育成	体験教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア形成に向け、教科等と関連付けた指導計画を作成し、活動意欲や目的意識を高める事前指導等に取り組んでいる。 ○ 地域の人々と協力し合う場を設けることにより、地域とのつながりを深め、ふるさとを愛する心を育てている。 ○ 体験活動を通して学んだことをその後の生活や学習にいかすための事後指導を行っている。 	良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」の推進とキャリアノートの活用を一体的にとらえながら、体験的な活動の実施に積極的に取り組んでいる。学びの連続性を図るためにも、事前・事後指導の在り方について工夫を図ってきたい。 ○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」による特別授業や地域での体験活動の実施により、地域の方々とのふれあう機会が増し、日常的なかかわりにつながる実践にもなっている。
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境問題への関心を高め、環境保全に向けた責任と役割を理解し、主体的に行動する力を育成している。 	やや努力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会科や理科等で環境問題については学習しているものの、その改善や解決に向けて自分たちのできることを考えて取り組んでいこうとする動きになかなかつながらない。
	ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の伝統文化・芸能、歴史や産業、建造物に触れる機会を設け、理解を深める活動に取り組んでいる。 	良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」の取組の一環として積極的に取組を進めている。社会科との学習とも関連させながら、さらに関心を高め、理解を深めさせていきたい。
	道德教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的な授業力の向上のため、指導方法を研究したり、「対話」のある授業研究に努めている。 ○ 道德科における生徒の学習状況や成長の様子を適切に評価できるよう、評価の在り方について研究を深めている。 ○ 道德の授業を公開し、学校の道德教育について家庭や地域の理解を得たり、副読本の活用など家庭との連携に努めている。 	良好	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道德の授業の評価について研究し、各学期の通知表に記載した。また道德の授業も、小中合同の研修会を2回開催し、外部から講師を招聘した授業研究を行い、日頃の授業実践に活かした。 ○ 道德の授業の公開授業や、「兵庫版道德教育副読本」を家庭で読んでいただき保護者に感想をいただく機会を設けるなど、道德の授業への関心を高める取組を計画的に行った。

<ul style="list-style-type: none"> ○ よく言われるように個性を伸ばすことも必要。でも一方で、一定の学力にも必要。生徒個々の学力に応じた指導方法等の工夫を引き続きお願いしたい。 ○ 全国や養父市の学力・学習状況調査では、全体としては同程度または上回る状況である一方で、上位と下位に隔たりがあり、平均層が薄いと聞きます。下位層の引き上げが必要とされるが、小学校の保護者アンケートからも、家庭学習の時間が少ない傾向があります。家庭学習の充実に向けて、保護者との連携を強化し指導にあたられた ○ 旧大屋町の頃には国際交流の機会があり、英語に興味を持ち意欲的に取り組む生徒が多かったように思う。英語を(生で)知る機会を子どもたちに与えてやってほしいし、そのことが地域の活性化にもつながると思う。 ○ 身近な地域の農業や環境変化への取組に触れる特別授業などを通して、疑問の解決や、工夫による発見の楽しさを体験する機会ができないか。 ○ 早くからPTA事業として情報モラル研修に取り組んできているが、スマホやSNSの急速な発展に先生や保護者がついていけない状況があるのではないか。情報活用能力の必要性はよくわかるが、SNS等でのやり取りや、ゲームや動画の閲覧に時間を取られ、家庭の団らんや家庭学習が乏しくなっているのではと憂慮される。また、情報の流出や犯罪に巻き込まれる危険性についてもしっかりと認識させ、自己管理の意識を強く持たせる指導の継続をお願いしたい。 ○ 体験教育は、地域の大人の実際の姿を通して学びを深めることが重要であり、地域の防災訓練への参加、ふるさと祭りへの参画等に引き続き取り組んでもらいたい。また、消防団の指導による火災時の消火栓の使い方などの体験活動のさらなる設定や工夫をお願いいたします。 ○ PTA活動の中に資源回収がありますが、大屋中は地域の方々から日常的に校地に段ボールを持ち込まれ、業者が定期的に回収されている取組もあります。環境問題への身近な取組として、こうした日常的な取組にも目を向けさせていってください。 ○ おおよ高原では、有機農業で野菜栽培に取り組む農家があります。環境教育や体験教育の両面からも活用できる場だと思います。 ○ 道德教育は、自他の大切さを学ぶ基本となるものです。また、人権意識を高めるためにも、生徒が身近に感じられるような授業展開の工夫をお願いしたい。 ○ 今後も道德の授業において多くの学びができるように、生徒たちが自分自身で考える機会をより多く与えていってください。
--

＜学校自己評価結果＞

豊かな心 の育成	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育の全体計画等を作成し、いじめやSNS等による今日的な人権課題について、教育活動全体を通して取り組んでいる。 ○ 同和教育の成果をいかし、今日的な人権課題に取り組むため、人権意識と指導力を高める校内研修を実施している。 ○ 生徒の自尊感情を高め、主体的・実践的な人権学習を進めるため、資料の活用や体験活動など指導方法を工夫している。 	概ね良好
	防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災教育指導計画のもと、各教科や体験活動等を通して、災害から自分の命を守るため主体的に行動する力を育成している。 ○ 災害対応マニュアルを見直しながら、市の関係課や消防署、家庭や地域住民等と連携した防災訓練を実施している。 	概ね良好
「健やかな体」 の育成	体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動の楽しさや喜び、健康の大切さを実感できるよう、個人差を踏まえた段階的な指導方法等を工夫している。 ○ 体力・運動能力等の改善に向けた活動を継続的に行うとともに、家庭との連携による運動習慣の定着に取り組んでいる。 	概ね良好
	食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調理実習や栽培等の体験活動を通じて、地域の産業や自然、食文化について理解を深める活動に取り組んでいる。 	良好
	健康教育・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域安全マップ」の活用など、日常的に危険を予測し、的確に判断・行動する意識の高揚に向けた指導を行っている。 ○ 薬物乱用防止教室の実施等を通して、薬物の健康への影響を認識させ、誘惑に負けない行動ができるよう指導している。 ○ 性に関する科学的知識や異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重した行動がとれるように指導している。 	やや努力
キャリア教育	体系的・系統的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の全体計画を作成し、「総合」や特別活動を中心とした教育活動全体でキャリア教育に取り組んでいる。 ○ キャリア教育指導資料を参照しながら「キャリアノート(ファイル)」の積極的な活用に取り組んでいる。 	良好
	社会とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部と連携して地域の産業等に目を向ける機会を設け、社会と自分のかかわりを認識させる活動に取り組んでいる。 ○ 各教科や生徒会活動、学校行事等において、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲・態度を養う取組を進めている。 	
特別支援教育	連続性のある多様な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別的教育支援計画や個別の指導計画は、指導内容や方法の工夫を検討するため、必要に応じて見直しを図っている。 ○ 多様性やUDへの配慮の観点から、発達障害等に関する基礎的な知識・技能の習得と指導力の向上に努めている。 	良好
	一貫性のある支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人や保護者との継続的な相談や懇談等を通して、就学や進路に関する合意形成を図っている。 ○ 校内支援体制の充実と教員の指導力の向上に向けて、特別支援学校のセンター的機能を活用している。 	
教職員の資質・能力の向上	資質と実践的指導力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職責と使命を深く自覚し、法令の遵守はもとより、高い倫理観や公正中立な立場の保持、職場の活性化に努めている。 ○ 自らの職責やキャリアステージに応じた課題への対応能力の向上のため、自主的・主体的に研修に取り組んでいる。 	良好
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な指示や発問、説明、板書の構造化を意識した指導方法の工夫・改善に努めている。 ○ 生徒の興味・関心等に応じた教材選択や学習課題の設定等により、主体的な学習意欲・態度の育成に取り組んでいる。 ○ 家庭での学習課題を適切に設定し、方法についてアドバイスをを行うなど、授業と関連づけた学習習慣の定着に取り組んでいる。 	
	学級経営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人に温かくゆとりある心で接し、生徒の安心感を高める工夫を図っている。 ○ 学級活動や生徒会活動等を通して、主体的に課題を見つけて解決しようとする実践的な態度の育成に取り組んでいる。 ○ 学校や地域行事等への主体的な参加を通して、自律性と責任感を自覚し、生き方を見つめ考える力の育成に取り組んでいる。 ○ 生徒の小さな変化を敏感に察知し、情報交換や連携を密に多面的な理解を通して組織的に指導している。 	良好
	協働体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域の方々の意見や要望等に真摯に対応するとともに、外部人材の積極的な活用を図っている。 ○ アレルギー発症時の救急処置のため、家庭や関係機関等との連携を含む校内救急体制を構築している。 ○ 危険等発生時に適切な対応を行うため、定期的に研修や訓練を実施し、必要に応じて対応マニュアルの改善を図っている。 	
組織づくり	問題行動や不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者、SC等と連携し、生徒の日常生活における変化に気を配り、悩みを積極的に受け止める教育相談体制を構築している。 ○ 授業づくりや集団づくり、適切なかかわり等を工夫し、生徒にとって「魅力ある学校づくり」を推進している。 ○ 課題等を抱える生徒の対応にあたっては、SSWの助言や協力を得て、関係機関等と連携し対応している。 	良好

(良好 概ね良好 やや努力を要する 一層の努力を要する)

○ 県による「新たな課題に対応した人権教育研究事業」に取り組み、校内研修を踏まえて、特別活動や総合的な学習の時間、道徳を中心に学習活動を展開した。特にSNS等を巡る人権問題については、技術科の授業での学習内容とPTA事業での親子研修会での実習内容とを関連付けて、人権の観点から問題意識を高めた。	○ 同和問題を主軸にして人権教育の校内研修を深めることが必要である。
○ 消防署と連携した防災訓練(煙体験)や予告なしの避難訓練などを通して、状況に応じて主体的に行動する意識を高められたが、さらなる工夫も必要である。	○ 市の「一斉避難訓練」での実践と防災安全課の「地域貢献リーダー養成講座」での学びを結びつける取組の工夫が必要である。
○ 全国体力・運動能力・運動習慣等調査(中2対象)の結果から、持久走や筋力に課題があることが分かり、ランニングや補強運動等、体育の授業や部活動での共通した取組を実施している。また、運動を好む生徒の割合が全国よりもやや低い傾向にあるため、家庭に啓発しながら、運動への興味・関心を高めていきたい。	○ 栄養教諭と連携し、日々の給食を通じて食に関する情報を伝えている。朝食抜きや給食を減量する実態もあり、食べることの大切さについての指導も図ってきたい。
○ PTA事業により作成した「地域安全マップ」の活用を図る取組の工夫、保護会との連携による「薬物乱用防止教室」での学びを基にした取組の工夫など、他の事業や取組と関連させた指導の工夫が求められる。	○ 性教育については、本年度、小中合同で9年間を通した「年間指導計画」を作成した。今後の授業実践が期待される。
○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」を推進しながらキャリアノートを蓄積しているが、キャリアノートへの評価や、キャリアノート相互の関連付けを図る指導の工夫、校種間をつなぐ「キャリアパスポート」の作成の工夫に取り組んでいきたい。	○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」による特別授業や地域での体験活動の実施により、地域を見つめる有意義な機会となっている。また、こうした機会を通して、各地区での活動への参加を促し、地域の方々とのふれあう機会が増し、あいさつなど日常的なかかわりにつながる実践にもなっている。
○ 生徒の実態に応じた「自立活動」のさらなる工夫が求められる。	○ 県立特別支援学校と日常的に連携しながら、適宜、来校を要請し、指導の在り方や家庭へのかかわり等について助言をいただき、指導方法等の工夫・改善にあたっている。
○ 職員会議や校内研修の機会を活用し、「信頼確保と規律の保持」に関する県の通知に常に立ち返りながら、自覚と意識の継続を図っている。	○ 面談や日常的なかかわりの中で、適宜、評価しながら、対応能力等の育成に努めている。
○ めあての明示やふり返り時間の確保等、共通した授業実践を行うとともに、道徳の授業を中心として板書や発問、問い返し等の指導技術を高める取組を進めている。	○ 家庭学習の質の向上に向けた取組についてさらに工夫を図る必要がある。
○ 学年会や「生徒指導兼不登校部会」、「学びの質向上委員会」を通して、学習・生活上の情報交換を密に行い、生徒の多面的理解と情報共有に取り組むとともに、生徒が自律性を高められるよう相談体制を整え、受け止めと投げかけを繰り返しながら指導にあたっている。	○ SSWによる保護者との相談対応等、家庭への支援体制も整いつつある。
○ 学校評価に係る保護者アンケートをこれまでの年1回から年2回に増やし、学校経営に生かしている。ホームページのリニューアルもその際の要望による。また、「ふるさとキャリア教育」の取組を通して、地域とのつながりを深めている。	○ アレルギー発症や危険等発生時の対応を常に確認しながら、危機意識を高めている。外来者を確認しやすいように、教職員の駐車場所の変更もその一環として取り組んだ。
○ SCやSSWを交えた毎週の生徒指導部会兼不登校部会での生徒の状況に関する情報交換と対応協議が、問題行動や不登校の未然防止、早期対応につながっている。また、こども育成課や子ども家庭センターに必要に応じて相談をかけ、迅速な対応を図っている。	○ 生徒が書く「生活アンケート」の内容を日頃の生徒とのかかわりに生かしながら、学級経営を行っている。

＜学校関係者評価＞

○ 人権については、永遠の課題です。人生の基礎を、学校・家庭で十分に身につけてほしい。	○ 人権意識を高めることは、自分自身の幸せにもつながる。そのためにも、生徒たちが正しい知識を得ながら、人としての生き方を学べる指導を積極的に展開してほしい。
○ 防災教育はよく行われていますが、防犯教育の取組も必要ではないか。防災も防犯も「自分の命は自分で守る」という安全・安心の確保に向けた取組として関連づけて取り組む必要があるのではないかと。	
○ 基本的な運動能力について、個人差が広がっている気がする。取組状況の中で、「運動を好む生徒の割合が全国よりやや低い傾向にある」とあるが、これこそ小中一貫教育を通して取り組んでいく必要がある課題である。小学校とのさらなる連携に期待したい。	○ 今後も食べ物を「育てて食す」といった活動に力を入れてほしい。
○ 養父市の農業(有機栽培)や水耕栽培などを通じて、植物が育つ上で必要な化学、健康への影響など学ぶ機会を作ってほしい。	○ 全国体力・運動能力等の調査によると、持久走や筋力に課題があるとされているが、バス通学の影響もあるのではないかと。課題を認識しながら、体育の授業や部活動での体力強化や運動能力向上に向けた取組に励まされたい。
○ 生徒たちには、働くことの大切さ、辛さ、尊厳などを早く自覚してほしい。それにより、生活力を養い自立することの大切さに実感をもって気づいてほしい。そのための取組をさらにお願いしたい。	○ 地域人材の活用において、卒業生の活用もできるのではないかと。また、零細ながら大手のメーカーに部品を供給する工場もあり、活用できるのではないかと。
○ キャリアノートやキャリアパスポートについては、その意義を踏まえ、さらに活用を進めてほしい。	
○ 生徒の障害に応じた自立支援のため、特別支援学校との連携をさらに密にししながら、日常の指導方法や保護者との教育相談をよりよく図ってほしい。	○ 障害があっても、住みよい学校・地域であるために、小中一貫教育の柱として特別支援教育に力を入れてほしい。
○ 日々、激務とは思いますが、健康に留意され、大屋っ子の成長のために尽力ください。よろしく願います。	
○ 人口減少と高齢化の進む中山間地域にあるものの、小規模校であることのメリットを最大限に生かした工夫をさらにお願したい。	
○ 学級全体や生徒個人の変化にすぐに気づける体制づくり、相談しやすい環境を整える努力を引き続きお願いします。	
○ 「学校だより」を通して家庭や地域と連携を積極的に図られようとしていることがよく分かります。地域での生徒のあいさつは元気がよく、さわやかで好評です。良い習慣として継続してほしい。	○ 家庭や地域との情報共有や連携により良く取り組まれている姿勢がよく分かります。今後も、より良い関係を維持していただきたい。
○ 家庭と相談しやすい関係を築いていただきながら、生徒の日常の変化に気を配り、相談機関とも連携した不登校対応をお願いします。	
○ 明るく素直な生徒が多い反面、自信をもって発信したり、行動したりするなど、自身をなかなかアピールできない子が多いのではないかと。アンケートを通じて、生徒の意識を見取っていただき、教育活動に活かしてほしい。	